

【22_044/思考系メルマガ】トレードノート回・自分がやらなかった(できなかった)トレードにも『発見』がある

〇〇さん

こんにちは、クロガキ(クロ)です。

今回もトレードノートシリーズ(?)ということで

日々トレードの記録をつけているひとなら「これってどうする?」と思うであろうことを特集していこうと思います。

□
└─┘ ■ トレードしたものだけでなく『やらなかったもの』も記録する意味

自分の利益にならなかったトレードといえば、一番わかりやすいのは

「損切り」のトレードだと思いますが、そのような記録から

負ける原因を特定し、今後の対策に活かす という意味で、その重要性を納得して取り組んでいる人は多いと思います。

ですが、自分が“チャンスだったのにできなかったトレード”となるとどうでしょう?

正直「めんどくさ!!!」って思うかもしれませんね(笑)

いやいや、気持ちは分かるんですよ。

本来自分でトレードしていれば利益になっていたはずで、それも分かっていたのにトレード出来なかったのであれば意味はない!と。。。

ですが、その気持ちをグッと抑えて、次のチャンスのために記録として残そう

という意識を持てる人は、何もしないより遥かに技術が向上します。

先日のモーニングライブでも、そういった記録の有用性について言及しているので併せてチェックしてみてくださいね。

▼モーニングライブアーカイブ:『やらなかったトレード』は記録すべき? ▼
<https://youtu.be/fDLGNplYsAY>

□
└─┘ 『なぜやらなかった(やれなかったか)』を突き詰めること

実際、一口に「トレードしなかった」と言っても、その理由は様々ですよ。

- ・会議中でチャートのチラ見もできる状況じゃなかった
- ・指値を置いておいたけど、運悪く刺さらなかった(根拠としては正しかった)
- ・なにか『迷う理由』があって躊躇した

記録をした時に、特に注目した方がいいのは最後の項目

なにか『迷う要素』があった場合です。

これは、ライブの後半でも僕が実際に喋った事ではありますが

何かエントリーボタンを押す前に『自分を躊躇させるもの』が何かあったのだとしたら

それは記憶が新しいうちに、すぐにでも記録として残すべきです。

その1回の見送りトレードだけでは、すぐに原因を特定できないかもしれませんが

もし『いつも同じような理由』で迷って見送り、利益を取り損ねていることがあったとすれば

それは“考慮する必要のない懸念だった”と分かるわけですね。

そうすれば、次に同様のチャンスが来た時には、迷わずエントリーする事が出来る。

このように経験量を積んでいく意味でも、このような記録を丁寧に付ける事には

大きな意味があります。

確かに面倒で、やっているその場では精神的な苦痛を伴う所もあるでしょうが

自身の成長の為と思って、ちょっと頑張ってやってみましょう。